

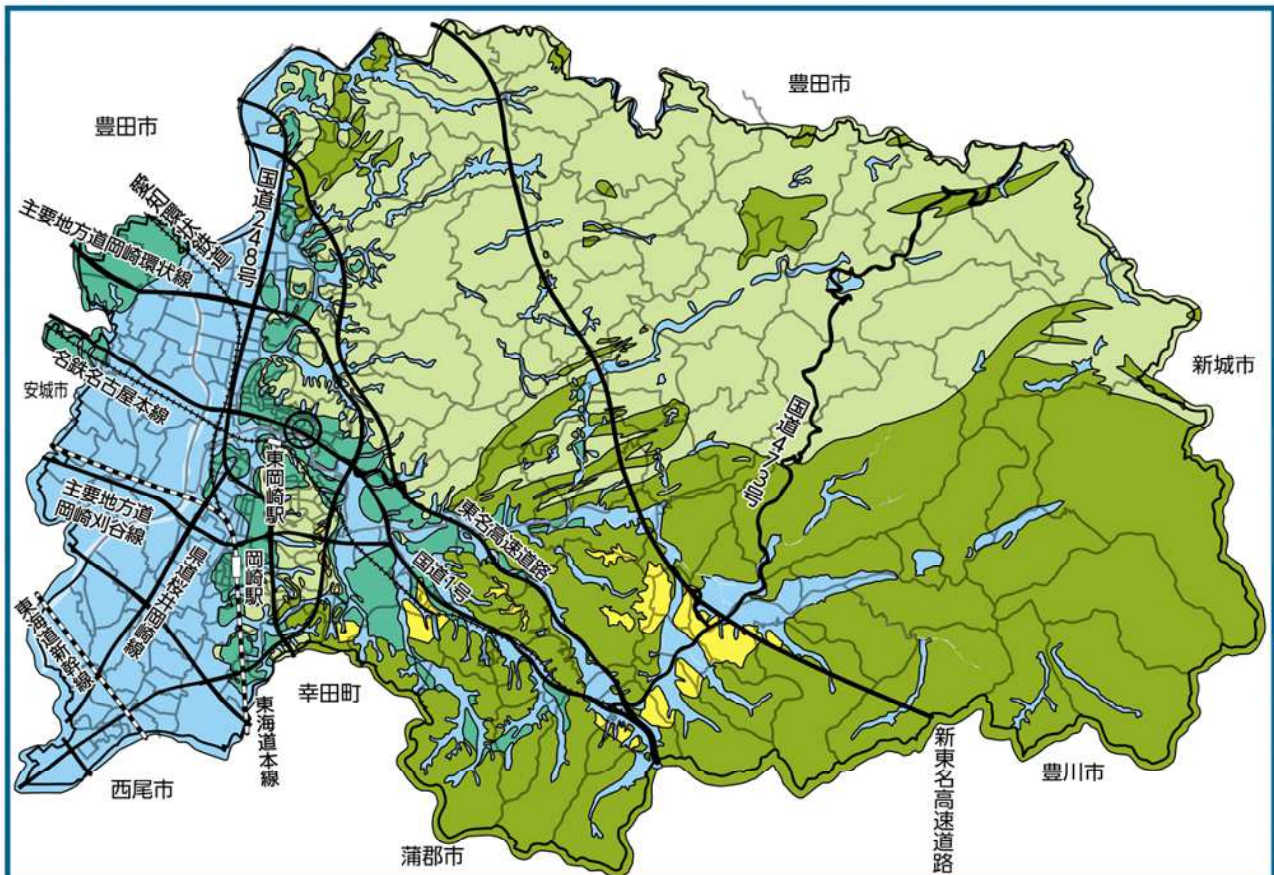
岡崎市の地形

地形・地質の違いにより、発生が想定される災害が異なります。
あなたの住んでいる場所がどんなところか確認しておきましょう。

地形・地質と想定される災害一覧表

百万年前	地質年代	地質名 岩石名	凡例	地質の特徴	地形区分	災害形態
0.01	完新世	沖積層	A	低地を形成する未固結な砂、れき、粘土などです。	低地部 山間低地部	<ul style="list-style-type: none"> ○水害発生の危険度が高いです。 市街地部は、田畑の埋め立てにより遊水スペースが少なくなったり、排水不良が起こったりして、豪雨時に冠水被害が発生しやすい状況にあります。 ○未固結の地盤が厚く分布する地域では地表部の地震動が増幅され、被害が大きくなりやすいです(P9の震度予測図参照)。 ○地震時には液状化発生の危険が高いです(P10の液状化危険度予測図参照)。 地下水位の高い砂地盤では、地震動により液状化が発生しやすいです。これにより建物が傾いたり、水道管・ガス管などの地下埋設物が破損したりします。 ○落石・斜面崩壊・土石流災害の危険があります。 山地・丘陵地・段丘崖では、雨や地震などの影響により、ゆるんだ斜面が崩壊したり、落石が発生したりする危険があります。急斜面の近くにお住まいの方は、斜面に異常がないかを確認することや、大雨、地震時の崩壊・落石発生に注意が必要です。谷部にたまった土砂やれきなどが、大雨時に水と一っしょに谷部を一気に流れ下る現象を「土石流」といい、谷地形出口付近では、土石流災害の危険があります。地震後の大雨時には、崩落した土砂が土石流となることがあるため、注意が必要です。
2	更新世	洪積層	D	低地の周辺に分布する段丘を形成する砂れき、砂、粘性土などです。沖積層よりは締りのよい地層です。	台地	
65	鮮新世 中新世	新第三紀層	Tn	丘陵地を形成する半固結～固結した砂岩、シルト岩、れき岩などです。	丘陵地	
77	白亜紀	領家新期 花崗岩類	Gr	山地を形成する岩盤です。花崗岩類と変成岩類が分布します。いずれも新鮮部は硬質ですが、地表部付近では、割れ目が発達し、割れ目に沿って風化が進んでいます。	山地部	
100		領家 変成岩類	Ry			

地質図



岡崎市内には「活断層」は確認されていませんが、市域より南側と西側には活断層が分布しています。特に南側には、1945年の三河地震に関連した「深溝断層」と呼ばれる活断層があります。

雨の強さや風の強さ

人の受けるイメージ・予想される災害

雨の降り方と発生する被害

1時間雨量	降り方と災害発生状況
10～20mm	ザーザーと降り、長く続く時は注意が必要
20～30mm	どしゃ降り。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。
30～50mm	バケツをひっくり返したように降り、山崩れ・がけ崩れが起こりやすくなる。
50～80mm	滝のように降る、マンホールから水が噴出、土石流が起こりやすい。
80mm～	雨による大規模な災害の発生するおそれがある。厳重な警戒が必要

※気象庁「雨の強さと降り方」より抜粋

風の強さと発生する被害など

風速10～15m/秒	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。
風速15～20m/秒	風に向かって歩けない。
風速20～25m/秒	しっかりと身体を確保しないと転倒する。
風速25～30m/秒	立ってられない。ブロック塀が壊れたりする。
風速30m/秒～	屋根が飛ばされたり、家が壊れたりする。

※気象庁「風の強さと吹き方」より抜粋、風速は10分間の平均

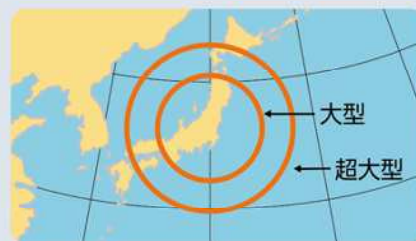
台風の勢力

大きさ

強風域の半径	階級
500km以上	大型の台風
800km以上	超大型の台風

強さ

最大風速	階級
風速33m以上	強い台風
風速44m以上	非常に強い台風
風速54m以上	猛烈な台風



岡崎市の主な風水害の記録(昭和以降)

発生年月日	災害区分(災害名称)	岡崎市域での被災状況(内数 旧額田町内の被災)	概要
1932年 昭和7年7月1～2日	大雨	死者・行方不明者5人、家屋全半壊6戸 床上浸水7戸・床下浸水529戸	矢作川流域で総雨量233mm
1953年 昭和28年9月25日	暴風雨(台風13号)	負傷者2人、家屋全半壊176戸、一部破損233戸、 床上床下浸水500戸(負傷者2人、家屋全半壊23戸)	台風の原因が岡崎市の南を通過。 風速20～30m/秒、 時間雨量30～40mmの暴風雨
1959年 昭和34年9月26日	暴風雨(伊勢湾台風)	死者33人、負傷者245人、家屋全半壊3642戸 床上浸水5戸・床下浸水212戸 (死者2人、負傷者2人、家屋全半壊210戸)	災害救助法適用
1961年 昭和36年6月24～27日	大雨(36.6梅雨前線豪雨)	床上浸水100戸・床下浸水700戸	
1969年 昭和44年8月4～5日	大雨(台風7号)	家屋半壊10戸、床上浸水230戸・床下浸水224戸 (家屋半壊10戸、床上浸水15戸、床下浸水61戸)	伊賀川、乙川沿いで浸水被害 台風は湖岬の西に上陸
1971年 昭和46年8月30日	大雨(台風23号)	死者1人、負傷者4人、家屋全半壊79戸、一部破損51戸、 床上浸水1254戸・床下浸水2944戸 (負傷者2人、家屋半壊3戸、一部破損8戸、 床上浸水71戸・床下浸水133戸)	災害救助法適用 総雨量433mm/日雨量351mm
1972年 昭和47年7月23日	暴風雨(台風9号)	家屋全半壊2戸、床上浸水15戸・床下浸水178戸	47.7豪雨(7月10～14日)の後
1972年 昭和47年9月16～17日	暴風雨(台風20号)	死者1人、負傷者9人、家屋全半壊65戸、一部破損82戸 床上浸水1戸・床下浸水3戸 (家屋半壊6戸、一部破損15戸、床下浸水2戸)	
1974年 昭和49年7月18日	大雨	床上浸水67戸・床下浸水699戸	総雨量66mm/時間雨量35mm
1982年 昭和57年8月1～3日	暴風雨(台風10号、低気圧)	家屋半壊1戸、一部破損2戸 床上浸水8戸・床下浸水251戸 (一部破損1戸、床上浸水1戸・床下浸水33戸)	総雨量172mm/時間雨量34mm
1983年 昭和58年6月24～25日	大雨	床上浸水22戸・床下浸水165戸(床下浸水19戸)	総雨量136mm/時間雨量53mm
1991年 平成3年9月14日	暴風雨(台風17号)	床上浸水77戸・床下浸水22戸	総雨量172mm/時間雨量45mm
1997年 平成9年9月15日	大雨(台風19号)	床上浸水5戸・床下浸水103戸	総雨量195mm/時間雨量55mm
2000年 平成12年9月11～12日	大雨(東海豪雨)	家屋全半壊9戸 床上浸水414戸・床下浸水1201戸 (家屋全壊1戸、床下浸水8戸)	矢作川水防警報発令 総雨量295mm/時間雨量55mm
2001年 平成13年8月21～22日	暴風雨(台風11号)	床上浸水3戸・床下浸水55戸	総雨量313mm/時間雨量33mm
2004年 平成16年10月8～9日	暴風雨(台風22号)	床下浸水38戸	総雨量241mm/時間雨量31mm
2008年 平成20年8月28～30日	大雨(平成20年8月末豪雨)	死者2人、全壊6戸、半壊3戸、一部破損22戸、 床上浸水1110戸、床下浸水2255戸	災害救助法、被災者生活再建支援法を適用 総雨量447.5mm/時間雨量146.5mm
2023年 令和5年6月2日	大雨(令和5年6月2日大雨)	床上浸水129棟(全壊1棟、半壊128棟)、 床下浸水262棟、一部破損4棟	総雨量386mm/時間雨量64.5mm
2025年 令和7年9月5日	大雨(台風15号)	床上浸水22棟(半壊11棟)、 床下浸水32棟、一部破損7棟	総雨量254.5mm/時間雨量93.5mm